

パリ通信9月号

サン・ジェルマン・アン・レのモーリス・ドゥニ県立美術館

9月も半ばを過ぎ、パリは秋が深くなった。朝は7-8°Cで肌寒く、昼間も20°Cそこそこである。9月の新学期が始まり、猛暑、水不足、山火事など暑かったフランスの夏の被害も遠く感じられる。このまま一気に寒くなるとは思えないが、今冬のヨーロッパは寒さに苦しめられそうだ。

原発大国フランスだが電気の供給が心配されている。すでに電気料金は値上がりし、11月から更に15~20%の値上げが予定されている。電気、ガスなどエネルギー源の高騰で冬の暖房費が凄いことになりそうだ。

ロシアや外国にエネルギー源を依存しているドイツの事情はさらに深刻のようで、冬の寒さも一段と厳しいベルリンに住む日本人の友人はせっかくバスタブのある家にしたのにこの冬は短いシャワーで我慢しなければ、と嘆く。さらにこのところの円安で日本の貯蓄を崩して生活費を補っている身には厳しい冬になりそうだ。

ウクライナ戦争もこのまま長引きそうで、寒いヨーロッパの冬は戦争の行方をも左右すると言われている。ナポレオンも冬のモスクワの寒さに失脚し、ヒトラーもロシアの冬には勝てなかった。地面が凍り、雪が散らつく2月末に始まったウクライナ戦争もこれから厳しい冬の戦いに入るのかと思うと、早く終わって欲しいという思いが一層強くなる。



不安な冬に入る前に、せめて秋の日差しを感じようと一日のんびり外で過ごすことにした。17日(土)と18日(日)の週末は「ヨーロッパ文化遺産の日」である。普段は見学することができない文化遺産が一般公開される日で、沢山の人が列を作って週末を楽しんでいる。幸い天気



も良く少し遠出気分です。サン・ジェルマン・アン・レの「モーリス・ドゥニ県立美術館」へ行った。修復工事で何年も閉まっていたこの10日再開したばかりのタイミングだ。

サン・ジェルマン・アン・レはパリから約30km西に離れた古い歴

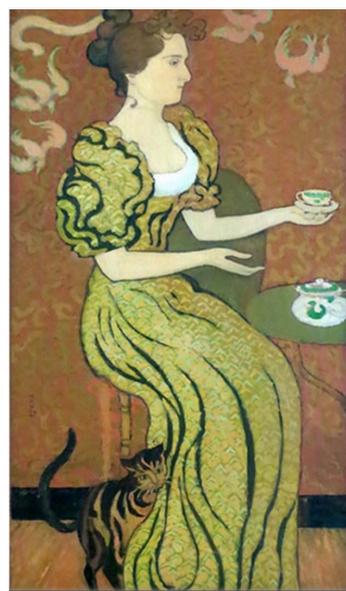
史の街である。サン・ジェルマン・アン・レ城は中世からフランス王家の住まいとして発展し、1638年ルイ14世が生まれた城としても知られる。そして20世紀前半モーリス・ドゥニが生涯を過ごした街でもある。

ナビ派の理論家モーリス・ドゥニ(1870-1943)は、画家、装飾家、版画家、グラフィスト、理論家、文芸・美術史評論家と多彩な才能の持ち主だった。ポール・セリュジエ、エドワード・ビュイヤール、ピエール・ボナールらとナビ派を形成し、宗教、イタリア、ブルターニュの風景をテーマにした作品を多く描いている。7人の子供の父として、敬虔なキリスト教徒として、パリとサン・ジェルマン・アン・レを往復する創作活動、夏は子供たちを連れてブルターニュ(ペロス・ギレック)の家で過ごし、家族の日常風景、浜辺で遊ぶ子供たちを描いた。

今は美術館になっているが、建物自体は17世紀末ルイ14世下にモンテспан夫人の発案で創立された王立病院だった。1802年にはナポレオン下施療院となり、その後所有者が何度も代わり、工場として使われることもあった。1875年イエズス会修道院が所有したが、1905年法でイエズス会も退出を余儀なくされた。この建物から遠くない場所で借家住まいをしていたモーリス・ドゥニは建物の一部をアトリエとして使用する許可を得て、1914年この館を購入し、住まい兼アトリエとして荒れていた内部の改装に尽くした。1943年パリのサン・ジェルマン通りで交通事故で不慮の死を遂げた後、恵まれない子供たちを受け入れる活動に利用されていたが、1976年国が買取



りモーリス・ドゥニ美術館として後世に残すことになった。



所有者になったモーリス・ドゥニは住まいと庭の再生に努め、特に聖ルイ礼拝堂は天井画、キリスト受難の14場面を描いた壁画、祭壇、ステンドグラスなど宗教と装飾芸術が融合するモーリス・ドゥニらしい空間に生まれ変わっている。庭に出ると「死にゆくケンタウロス」(1914年作ブロンズ像、高さ292cm x 幅80cm x 長さ185cm)を始め、アントワーヌ・ブルデル(1861-1929)の質の高い彫刻が目に入る。ブルデルが壁面のレリーフを彫り、モーリス・ドゥニがコンサートホールの天井画を描いたパリのシャンゼリゼ劇場のコラボレーションを思い出させる。四方を高い石垣の塀に囲まれ、坂の敷地にある建物と庭を歩いた後に、サンジェルマン・アン・レのお城や自然に触れるとその風景がモーリス・ドゥニの作品中に生きていることを実感できた。

編者解説

写真1 サン・ジェルマン・アン・レ城 (PCより)

写真2 聖ルイ礼拝堂 (古賀順子さん撮影)

写真3 ミューズたち (古賀順子さん撮影)

写真4 猫とランソン夫人 (PCより。古賀さんからの写真が掲載できなかった)

パリから日帰りのできる場所で「パリ通の訪れる所」として有名です。

ベストピア本文は安倍国葬について語りたいので月末になります。